

第2学年 生活科学習指導案

日時 平成22年10月1日(金)5校時
児童 男10名 女4名 計14名
指導者 千葉映子

1 単元名 『いっしょがいいね』 ～チャレンジ・ザ・しごと～

2 単元の目標

- 家族や自分の生活を振り返ることにより、規則正しく健康に気をつけて生活しようとする関心を高める。(関心・意欲・態度)
- 家庭生活を支えている家族のことや自分でできるようになったことなどについて考えることができる。(思考・表現)
- 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることに気付くことができる。(気付き)

3 単元について

(1)児童について

児童は、1学期の反省で係活動の取り組みについて14名中7名がよくがんばった、5名ががんばったと自己評価している。目立つ活動とそうでない活動があるが、「学級みんなのために自分が取り組むべきこと」という意欲を持って取り組んでいる。夏休みには、家庭での毎日自分でできめた仕事に取り組むことで自分たちにとって最も身近な家庭生活について関心を高めてきた。

本単元を始めるにあたって、家での仕事について児童と保護者にアンケート調査したところ、次のような結果になった。

1 普段行っているきまった仕事(保護者)	ある(10名) とくにない(4名)
2 夏休みの仕事の取り組み状況(児童)	よくやった(6名) まあまあ(1名) ときどき(3名) あまり(1名) 言われてから(3名)
3 やってみたい家の仕事(児童) 複数回答	4 やって欲しい家の仕事(保護者) 複数回答
ペットのエサやり(10名) お風呂掃除(4名) まどふき、食器洗い(3名) 玄関掃除、洗濯、 テーブルふき(2名) その他(11名)	お風呂掃除(6名)洗濯物たたみ(4名) 食器洗い(3名)玄関掃除、洗濯物運び(2名) 食器並べ、洗濯物干し、味噌汁の盛りつけ (1名)

普段からきまった仕事をしている児童は10名おり、お風呂掃除、料理の手伝いが最も多く、次いで夕食の用意(食器並べ、テーブルふき)、カーテンの開け閉め、花の水やり、牛の世話であった。また、家の中にある自分ができそうな仕事ややってみたい仕事をすぐに想起することができたが、ペットのえさやりなど簡単なものを考える児童が多かった。夏休み中の仕事は半数の児童が最初はやったが忘れて、言われてから思い出してやったりしていることも分かり、保護者から見ても、まだやってもらって当たり前と思っている児童やなかなか長続きしない児童がいるので、継続することが大事だと考えている家庭が多いことが分かった。

(2)教材について

本単元は、生活科学学習指導要領の内容(2)「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。」を受けて指導するものである。ここでは、児童が家族とともにしていることや家族にしてもらっていることをふりかえり、家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を進んで行うようになることを目指している。

児童にとって家庭は生活の場であり、家族の温かい愛情の中で支えられ、育まれている。しかし、家族はあまりにも身近であるため、家庭の日常の営みは当たり前のこととして受け止められている。本単元を学習することで、改めて自分の家族を見つめ、家族の支え合いによって毎日の自分の生活が成り立っていることを知り、家族のために自分は何ができるかを見つけ、それを実際の生活の中で実践していくきっかけとなる教材である。

(3)指導について

第1次では、家族紹介をすることにより、今まで何気なく過ごしていた家庭生活に目を向けさせる。その際、家庭にはどんな仕事があり、それは誰がしているかを調べることで、家庭には多くの仕事があり、家族はみんな協力し合っていることに気付かせ、自分にできる仕事に取り組んでみたいという意欲をもたせたい。

第2次では、家族の一員としてできる仕事を見つけ、チャレンジしていく。自分がしてみたい仕事について家の人に教えてもらい、実際に自分の家で家族と一緒に取り組んでみる。そうすることで、家族と一緒に過ごす楽しさや家族の温かさ、家族の大切さに気づき、家族のために役に立つ喜びと自信を感じることができると考える。そして、3日間仕事に取り組んだ後に中間報告会を設け、自分が取り組んでいる仕事の手順やこつなどの情報を交換する場を設け、自分の取り組みを振り返るとともに、友だちのがんばりを認め合うことができるようにしたい。その際、気付いたことや思ったこと、感じたことや家族の言葉も紹介するようにする。自分の取り組みを表現することで、お互いのがんばりを認め合ったり、それぞれの家庭の仕事の仕方にも違いがあることに気付いたりするだろう。そして、これからももっと上手に仕事をしよう、続けてみようと思う意欲付けを図りたい。

第3次では、仕事にチャレンジして高まった思いや気付きを思い思いの方法で表現できる場として、「チャレンジ・ザ・しごと発表会」をする。自分のがんばりを紹介するために、これまでの活動をふりかえり、自分なりの方法で生き生きと活動を進めるようにしていく。これらの活動を通して、自分でもできた達成感や家族に認められた喜びを味わい、家族の一員として自分も役に立っていることに自信をもち、最後は体験することでわかった大変さも含め、それをずっと取り組んでいる家族に感謝の手紙を書き、これからもよりよい生活をしようとする態度を育てたい。

(4)キャリア教育との関わりについて

キャリア教育にかかわる2学年のテーマは、『よさをしろろう、じぶんとともだち』である。

本単元では、キャリア発達に関わる能力のうち主に次の能力を育成できると考える。

【コミュニケーション能力】

- 家族の仕事や自分がした仕事の様子を、自分なりの方法で表現する。
- 家族について調べたり、一緒に仕事をしたり遊んだりしたことを友だちと情報交換する。
- お世話になった人に感謝の気持ちを表す。

【自他の理解能力】

- 家族のよさや自分のよさに気付く。
- 家族に守られ、助けられていることに気付き家族に感謝の気持ちをもつ。

【役割把握・認識能力】

- 家の仕事の内容や役割の大切さに気づき、手伝いや家族のため自分ができることを実行する。

【課題解決能力】

- 自分のことは自分で行おうとする。

4. 単元の構成

◎は重点

過程	時間	主な学習活動と内容	キャリア教育との関わり									
			かかわり、つたえる		しらべ、きづく		ゆめやきぼうをもつ		かみがえ、きめる			
			自他	コミ	情報	職業	役割	計画	選択	課題		
第1次	1	○自分の家族に関心を持つ。 ・生活の音を聞き、家庭の中にある音に関係がある家族を想起し、家族のことについて、紹介したいことや紹介の方法について話し合う。		◎								
	2	・家族紹介の準備をする。			○				○			
	3											
	4	・自分の家族について紹介しあう。	◎	◎								
第2次	5	○「チャレンジ・ザ・しごと」の計画を立てる。			○						○	○
	6	・家族が自分に望んでいることをインタビューしたこともふまえ、自分ができそうな仕事ややってみたい仕事を考え、やり方について調べる。 (家庭で3日間実践し、うまくいったこと、うまくいかなかったことを記録しておく。)										
	7 (本時)	・「チャレンジ・ザ・しごと」中間報告会をする。	◎	◎								
第3次	8	○「チャレンジ・ザ・しごと」発表会をする。	◎	◎								
	9	・中間発表会を経て、継続した仕事についての発表会をする。										
	10	・ゲストティーチャーの話を聞き、社会的労働と家事的労働があることを知る。				○		◎				
	11	・家族へ感謝の手紙を書く。	○							○		

5 本時の指導

(1) 目標

自分で決めた仕事の取り組み方を再確認し、仕事を継続するための計画を立てることができる。

(2) 評価規準

評価規準	具体的評価規準		手立て
	十分満足できる	概ね満足できる	
◆家で仕事をしたときのことを思い出し、仕事をしながら考えたことや気づいたことから継続するための計画を立てる。 【思考・表現】 (行動・カード)	仕事をして気付いたことや友だちの発表から、進んでお試タイムに取り組み、継続するための計画を立てることができる。	仕事をして気付いたことやお試タイムで試したことから、継続するための計画を立てることができる。	グループの話し合いでは友だちのうまくいったことに目を向けさせるとともに、お試タイムでは自分にとって役に立つ方法を見つけさせる。

(3) キャリア教育の視点

◇家での仕事によりうまく取り組むためにはどうすればいいか考え、話し合い、よりよい作戦につなげる。【コミュニケーション能力】

◇各家庭によって仕事のやり方が違う場合があることを理解する。【自他の理解能力】

(4)展開 (7/15時)

段階	学習内容と活動	指導上の留意点	備考・評価 (◆教科◇キャリア)
つかむ 3分	1 家での仕事を想起する。 2 課題を確認する。 「チャレンジ・ザ・しごと」をせいこうさせるさくせんをたてよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジカードの振り返りを紹介する。 ・本時の流れを確認する。 ・作戦会議の進め方、話し方、聞き方の約束を確認する。 	チャレンジカード
ふかめる 32分	3 3日間家で仕事してうまくいったこと、うまくいかなかったことを発表する。 4 よりうまく取り組むための作戦を考える。 ・個々に考える。 ・同じ仕事グループで発表する。 ・お試しタイムとしてよいと思われた方法を試す。 5 グループの代表が、どんな作戦を考えたか発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・やり方・工夫(こつ)・家の人から教えられたことを入れることを確認する。 ・今まで調べた仕事のやり方のカードや家の人から教えられたことをもとに、自分の取り組みを振り返るようにさせる。 ・チャレンジカードに作戦を記入させる。 ・お試しタイムで試したことや友だちからのアドバイスを参考に作戦を発表させる。 	◇家での仕事によりうまく取り組むためにはどうすればいいか考え、話し合っているか。 【コミュニケーション能力】 (発言・行動) ◆【思考・表現】 (行動・カード) ◇各家庭で仕事のやり方が違う場合があることに気付くことができたか。 【自他の理解能力】 (発言・観察)
まとめ 10分	6 振り返る。 ・友だちのよかったところ ・話し方・聞き方について 7 家族からの励ましカードを紹介する。 8 次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会、おためしタイムを観察し、上達した部分をほめる。 ・ふりかえりカードに記入することで、学んだところや気づいた点を意識させる。 ・仕事に取り組んでがんばっていること、家族から子への感謝の気持ち、励ましのメッセージを事前に書いてもらう。 ・本時の作戦をもとに1週間取り組んだ成果を発表しあうことを確認する。 	ふりかえりカード 励ましカード

(5) 板書計画

課題	「チャレンジ・ザ・しごと」を せいこうさせるさくせんをたてよう。	→	それぞれのさくせんで 1週間がんばろう	
中間ほうこくかい	仕事名			
うまくいっていること・・・	・・・	・・・	・・・	・・・
うまくいかないこと・・・	・・・	・・・	・・・	・・・
さくせん				

